

学校目標：強いからだと美しい心を持った人間の育成

観点	中期経営目標	短期経営目標	整理番号	具体的方策	評価指標	目標値	自己評価				達成状況	学校関係者評価		改善計画	
							評価アンケート	評価	評価	評価		評価	コメント		
							教職員	児童	保護者	評価					
確かな学力の定着	児童が意欲的に参加できる授業づくりを通して、学習内容の定着を図り、確かな学力を身につけた児童を育成する。	言語活動を重視したわかる授業を展開する。	1	学習のめあての提示と振り返りのある授業展開をする。	めあてを意識して学習に取り組んだ児童の割合	80%	B	A	A	A	話し合い活動の実施はしているが、質の吟味が必要である。 ・おおむね達成。しかし、振り返りが不十分である。	A	・1学期に比べて改善が見られた。引き続き指導をお願いする。	・研究と関連させ、継続する。	
			2	自分の考えを広めるための交流活動を取り入れた授業を展開する。	自分の考えを話し合いで積極的に伝えることができた児童の割合	80%	B	A	A	A					
		基礎学力及び学習習慣の定着を図る。	3	月1回、学年配当漢字と基礎計算のテストを実施する。	書取会・計算会の平均点が80点以上の児童の割合	80%	A	A	A	A					
			4	家庭学習の手引きを活用し、家庭学習を習慣化させる。	手引きで示した1日平均の家庭学習時間の達成率	80%	B	A	A	A	・おおむね達成。さらなる定着を図りたい。	A	・教職員・児童・保護者のすべてにおいて、A評価はすばらしい。もう少し目標値を上げてほしいのではない。	・目標値を85%に上げる。	
		個に応じた指導の充実を図る。	5	この学習状況をきめ細かく把握し、必要に応じてフォローアップ指導を行う。	学力調査の結果を生かし、国語・算数の単元テストの学級平均点80点以上の学級の割合	80%	B	B	B	B	・意欲は高まっているが、結果とのずれがある。 ・個に応じた指導が不十分である。	B	・意欲と結果のずれが小さくなるような打開策が必要では？ ・学校として重要だと思われる教育相談や教員の情報交換への時間確保が難しい点については、早急に改善していただくようお願いする。	・評価指標を「学力調査の結果を生かし、弱みの改善を図る」に変更。 ・朝読書の時間を週一回ローマ字プリントの時間にずらす。	
			6	能力別や課題別等、個に応じた指導形態を取り入れる。	学習の楽しさや理解度が増したと感じる児童の割合	80%	B	A	A	A					
		7	学校図書館を活用した学習活動を推進する。	担任と学校司書が連携し、教科の学習に学校図書館を活用した内容を取り入れる。	調べ学習等で学校図書館を活用した授業を学期に1回以上実施した割合	90%	B	B	B	B	・教員の意識改革が必要である。				
豊かな心	あらゆる教育活動を通して、人権意識や自尊感情の醸成を図る。	人権・同和教育、道徳教育の充実を図る。	8	教科等や学校行事などと道徳の時間を関連させた授業を行う。	教科等や学校行事などと道徳の時間を関連させた授業を実施したクラスの割合	80%	B	B	B	B	・全ての学級で重点項目について関連させた授業を行った。 ・研修を行うことはできたが、研修の内容についてはさらに検討していきたい。	A	・(整理番号「8」について)道徳の時間と関連させた授業は難しいと思う。日々の指導と関連させることでいいのではない。	・県教研に向け、年度当初に「学級における道徳教育の指導計画」を参考にして、道徳の時間と教科や行事等を関連させた授業の見直しを持つ。	
			9	職員・児童とも、人権意識を高める研修を行う。	人権意識を高める研修を年間1回以上実施した割合	100%	A	A	A	A					
		礼儀や規範意識の向上を図る。	10	あいさつ・返事・くつそろえについて年間生活目標を掲げ、強化週間を設定して取り組む。	元気のよいあいさつや返事・靴そろえが日常化している児童の割合	70%	A	A	A	B	・強化週間を設定し、さわやかカードへの記入で、あいさつ・返事・はきものそろえ・時間を守ることに意識して生活できた。特に、はきものそろえについては、全体指導後に学級指導を行うことで、徹底して指導できた。各学級で評価し、次の指導へとつなげることができた。	B	・(整理番号「10」について)学校での指導だけでは、日常化することは難しいと思われる。教化の時だけでなく意味がない。家庭との連携を図る指導を検討してほしい。	・不十分な項目(靴揃えなど)について、強化週間を設ける。また、〇〇週間など、学校全体で行う活動について、学級便り等で紹介し、家庭への啓発を行う。	
			11	様々な教育活動において五心の意義について指導し、評価し、実践かを図る。(五心の内いずれか一つ)	五心に関する指導を行ったクラスの割合	70%	B	A	B	B					
		児童同士、児童と教師の良好な人間関係作りに努める。	12	教職員の情報交換や教育相談を通して良好な人間関係作りに努める。	情報交換や教育相談を実施した割合	70%	B	A	A	B	・QUアンケートや生活アンケートを実施し、教育相談を行った。友達関係について、アンケートをもとに、一人一人と話し合い、ふれあうことで、安心して学校生活が送られるようにすることができた。	A	・アンケートをもとに、一人一人と話し合いを持った結果、安心して学校生活が送られるようになったことは評価するが、教育相談を行っていない点は問題である。	1・2学期に教育相談を行う。担任以外の教諭(養護教諭)と話したい児童については、時間設定し、教育相談を行う。	
13	学期に1回、学級イベント(学級遊び)を工夫する。		学級への所属感や満足感を感じている児童の割合	80%	B	A	A	A							
健康な体と体力の増進	健康な身体づくりを目指すと共に体力の向上を図り、進んで運動に親しむたくましい児童を育成する。	早寝・早起き・朝ご飯等の基本的な生活習慣の定着を図る。	14	江津中校区での「No!メディア週間」にあわせた取組を行い、意識づけを行う。	「ノーメディア」に取り組んだ児童の改善の割合	60%	B	B	B	B	・中学校と同步調での取組、カードの工夫等で、意識の高まりは見られた。個人差が見られ、継続が難しい。 ・計画的に実施できた。	A	・ノーメディアの取組については、大いに課題があるが、学校での指導というより家庭の意識に問題があるように思う。意識が高まるようなメディアの研修会の実施回数を増やしてはどうか。	・中学校区での取組を継続し、研修会への参加を勧める。ノーメディアカードの改善をする。 ・身体測定カードを活用し、保護者と連携した肥満への個別指導も行っていく。 ・朝ごはんウィークの取組を継続し、保護者と連携して、朝ごはんの改善を図る。	
			15	学年に応じた身体測定時保健指導を計画的に行い、身体測定カードを活用していく。	身体測定時保健指導と身体測定カードを活用した割合	100%	A	A	A	A					
			16	朝ご飯の大切さや内容改善について、学級の実態・発達段階に応じた指導を行う。	朝ご飯を食べて登校する児童の割合 主食、主菜、副菜がそろった朝ごはんを食べる児童の割合	70%	A	A	B	A	・朝ごはんウィークで、保護者と共に取り組むことができた。				
		体力の向上を図る。	17	授業の導入で、持久力を高める運動「鬼ごっこ・1分間走など」を取り入れる。	体力テストのシャトルランで県平均を上回る児童の割合	70%	B	A	A	A	・児童の実態から授業における重点について取り組み、成果を待つ段階である。	A	・成果を待つ段階であるので、現段階ではコメントはない。良い結果を期待している。	・次年度へ継続しつつ、結果分析を行う。	
18	カードやDVDを活用し、学年に応じた指導を行う。		学年のめあての達成率	70%	B	A	A	A							
ふるさと教育	地域とともに歩み、また、信頼される学校づくりを通して、地域を愛する児童を育成する。	家庭や地域への学校の適切な情報発信を図る。	19	学校・学級通信を定期的に刊行する。	学校・学級通信を月1回以上発行した割合	100%	B	B	B	B	・学校だよりや学級だより等を定期的に発行し、積極的な情報発信がなされた。回数的にはまだ十分とは言えないもの。開校140周年記念事業や低学年の生活科の学習等で地域と連携を密にした活動がなされた。	B	・地域が積極的に学校行事等への参加しやすいよう、年度当初に行事予定の案内など情報発信をお願いしたい。	・今後さらに広報活動を充実させ、学校だよりや学級だより、掲示物等によりタイムリーな情報を数多く提供していく。	
			20	保護者や地域への授業・学校行事等への積極的な公開と参加の働きかけをする。	保護者や地域への公開の場や連携した活動の場を月1回以上設けた割合	100%	B	A	B	B					
		地域素材を生かした学習活動を推進する。	21	地域の人材を指導者・支援者として幅広く招く。	「学校支援地域本部事業」年間30回以上の活用率	80%	B	A	B	B	・学校支援地域本部事業については、学習支援のみならず、社会科見学や校外学習での見守り隊の活用が前年度以上に見られた。ただ、学年によって活用頻度に差が見られるのが課題である。多くの児童が地域での学習を楽しみを感じ取っている。	A	・児童の評価から、地域を愛する心が育っていると判断する。今後は、本町地区以外の地区にも地域学習の範囲を広げ、更なるふるさと教育の充実を図っていただきたい。	・学校支援地域本部事業のさらなる活用と社会教育機関等との密な連携を図り、地域の教育力をより一層活かした教育活動を展開していくことで、学力向上や思いやりの心、ふるさとへの愛着を高める。	
			22	各教科や領域の学習において、積極的に地域教材を活用する。	地域のよさやすばらしさを感じ取ることができた児童の割合	80%	B	A	B	B					

記号凡例 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分